

竹田先生の講演には、曽根小学校在任中より神戸や姫路などでの講演会に参加させていただいて以来、可能な限り参加させていただいております。また、監修されている本も何冊かですが拝読しております。

発達障害の名称や分類など、ここ10数年の間に少しずつ変化が生まれていることは、研究が進み、児童生徒それぞれの特性に合わせた受け止め方や指導の在り方を考える必要があるとともに、個々に対する手立ても少しずつ変えていかなければならないということと以前より伺っておりましたが、今回の講演、資料から、基本的なとらえ方、発達障害の特性や発達段階に応じた対応の仕方など、若手からベテランまで、教育に携わる者として改めて心にとめておかなくてはいけないことを確認できました。

当事者である児童生徒に対してだけでなく、お子さんの成長に悩み、困り感を抱える保護者に対して適切なアドバイスや連携手段などを伝えていき、手を携え、車の両輪となって児童生徒を支えていくためにも、全ての学校の教職員が勉強を深めていく必要があると感じます。特に、担任だけが抱え込むような状況にしない、チームで対応していくということを十分心がけなくてはいつも考えます。

学校や学年、学級においては、保護者の願いや児童の困り感などを十分に受け止め、個々に対する対応を十分行っていくと同時に、学年や学級の中で周りの友だちに対する働きかけや支援、クラスづくりなどに細心の注意を払わなければなりません。人権の視点からも、個々を伸ばすために、集団を育てることも大きな課題となります。個別の事例に合わせ、互いを認め、違いを認め、その中でお互いに自己有用感をもてるような雰囲気づくり、体験の場づくりが本当に大切だと感じます。すでに学校園では取り組まれていることですが、単年度での取り組みだけでなく、経年で対象児童生徒が成長している様子や成長のためにどんな手立てを行ったか、関係機関との連携についてなどを引き継いでおられます。ご多忙な中ですが、記録を残し、毎年引き継いでいかれる中で成長に寄与されている先生方の取組に感謝すると同時に、今後も引き続きこの取り組みをより深めていくことができればと思います。

ご多用の中、竹田先生が高砂市に毎年のようにお越しくださり、教職員に向けて研修を行っていただけることは大変ありがたいことです。ロータリークラブの皆さんのご支援があればこそいつも感謝しております。今後とも、引き続きご指導いただける機会があれば大変ありがたいと感じています。竹田先生のお話を聞きながら、今までに担任した子、今現在関わっている子の顔が次々に浮かんできました。自分が関わる全ての子どもたちに適切な支援ができるようにしていきたいです。来年度もぜひお話を聞きたいです。

自閉の問題を感覚から判断するということは初めて知った。子どもたちと接する際には、聴覚や固有感覚等の感覚がどうなのかということを常に注意して見ておかなければならない。くるくる回る、ジャンプをするという行為が快の刺激になっているということも教えて頂いた。変わった行動だととらえるのではなく、その子が出している何らかのサインな

のだと考え支援をしていかなければならない。視知覚の部分に関する支援が進んでいないということであったので今後学んでいきたい。発達障害のある子どもにとって「不快な先生」にならないよう気をつけたい。蛍光灯の光を嫌う講師先生のエピソードが印象に残った。

園児のなかに、女の子をさわってしまう男の子がいます。保護者どうしのトラブルに発展してしまったこともありました。人との距離の取り方を教えるために、ソーシャルディスタンス（自閉症ディスタンス）を繰り返し教えていきます。

ソーシャルスキルの基本形について不勉強でした。「廊下を走ってはいけない」に見られる肯定的な言葉や命令語を使ってしまっていました。明日からは言い方を変えます。また、言い方を変えるだけでなく、やり方を見せて確認します。廊下の歩き方だけでなく、他の指導場面にも応用していきます。ご示唆くださりありがとうございました。

発達障害のある子へのいじめの部分についてです。過去に受け持った子ですが、3学期から学校に来にくくなってしまいました。担任である私のせいです。その子のことを思うと本当に申し訳なく思います。毎日のように家庭訪問をし、励まし続けました。結果、少しずつ登校日数が増えていきました。発達障害について自分がしっかりと学び、適切な支援ができていたらその子や保護者を苦しめることはなかったと思います。今回の竹田先生の話のしっかりと咀嚼し、今後の実践に活かしていきます。

ADHD、自閉スペクトラム症等の発達障害に関する基本的なことについて改めて確認できました。高機能自閉症の子どもよりアスペルガーの子どもへの対応の方が難しいということを知りました。

発達障害のある自分の子に対して「私の育て方が悪かったのか・・・」と自分を責める保護者もいらっしゃいます。「原因はしつけではない。障害はその子どもに関わる環境との相互作用で起こる。」不安を抱えている保護者に寄り添ううえで竹田先生のお話はとてもためになりました。

まずは「ぼく、分かりません。」と言える子を育てなければならない。そして次に「ここが分かりません。」と言える子を育てなければならない。先生のメッセージがとても印象に残っています。実践します。

学童期の課題のところで、テストの褒め方の話がありました。点数ではなく、がんばったことを褒めなくてはならないと教えてもらいました。「自分の子」となるとあたたかい言葉をかけることができていません。子どもの自尊心を大切にするためにも今後気を付けま

す。

「反抗挑戦性障害」と「行為障害」の違いが分かりました。カリスマティックアダルトという言葉が印象に残りました。先輩の先生で、元気な子たちを上手に統率する方がいらっしゃいました。その先輩こそカリスマティックアダルトだったのですね。発達障害の子どもには「担任」が全てではなく「相性の良い人」が必要なのです。子どもたち一人一人をしっかりと支えられるそういった「あこがれの存在」を目指します。

文字の読み書き、特に「書く」ということに課題のある児童がいます。ひらがながすつと出てこなかったり、時に忘れてしまったりすることがあります。計算はゆっくりですがある程度できます。発達がアンバランスです。ディスレクシアの子への指導に ICT 機器が有効だと教えてもらいました。今後、一人一台のタブレットが整備されるということを知っています。最大限活用して子どもたちを支援していきたい。

全ての教員ができるサポートの3か条（1、ゆっくり子どもが理解できる速さで 2、何回も繰り返す 3、教材を優しくして教える）については普段の授業で意識していましたが、今回の先生の話聞いてやっているつもりになっていたと反省しました。残りの50%が重要ということで、その50%（視空間認知と聴覚認知）についてまだまだ勉強をしていく必要性を感じました。今回の研修でも多くのことを教えて頂きました。

聴覚情報処理障害という障害について知った。ノイズカットが上手にできず、バリアに穴が開いているという状態ということであった。そのため、教室において教師の指示が聞き取りにくくなる。訴えてこないだけで、困っている子どもが教室にいるかもしれない。一人一人の反応や表情等にしっかりと注意し、授業をしていかなければならない。また、音韻認識力の重要性を教えて頂いた。「時間かけたらできたはダメ。ゆっくりであつたら言葉の認知にはつながらない。速く正しく読ませるようにする。」ということ意識し、今後の授業に活かしていく。

発達障害の8割から9割は教育問題であるという竹田先生の言葉が強く心に刺さりました。明日からも帯を締め直して教壇に立ちます。

ディスレクシアの子がどのように文字を認識しているのか、また状況を改善するためにはどのような指導がいいのかということについて学びました。

センター試験での合理的配慮、授業における合理的配慮など、具体的な事例を教えてください、ありがとうございます。光村の情報もありがたかったです。保護者の方も学んでいら

っしやると思うので、私たち教師も ICT 機器の活用方法について知り、実際に取り入れていく必要があるということを強く思いました。

竹田先生の講演は、以前から全体研修などで拝聴させていただいています。ディスレクシアについて初めて学ぶきっかけになったことや、学習支援の様々な方法を学ぼうとするきっかけになったのも竹田先生の講演からでした。

今回の動画では、個人情報の観点から個別の具体例がなかったことが、とても残念ですが、保護者や教師の支援について在り方について再び考えさせられました。自閉スペクトラムや ADHD は医学では全て解決できない、教育の力がとても必要であることに自分たちの仕事の大切さを感じさせられました。

実際には、発達障害を持った子どもたちの教育には、根気も時間も、心労も使うことになります。時には、やってはいけない支援を使ったり、保護者とうまくいかなかったり、先生と子供の関係が悪くなったりすることもあります。竹田先生の話聞いて、いつもなのですが、何人かの子どもの姿が浮かんできます。そして、〇〇君は「……………で困ってるのかも？」というのも思い起こされます。

学校では、発達障害を持つ子どもたちは、手のかかる存在として温かなまなざしや声をかけてもらえません。その中で、2 次障害をおこし、社会に対応できない大人になってしまうこともあります。しかし、竹田先生は最後に先生方に教育の大切さ、子どもが信頼する存在に頼ること、支援の方法など、希望になることを語ってくれました。ありがとうございました。

まず最初に、「発達障害の原因は、育て方・しつけ・環境に起因しない」ことについて、ていねいに解説いただきました。子どもの発達に悩んでいる保護者は、最初にこの話を聞くことで、ずいぶん救われたのではないかと感じました。

特別支援について勉強不足の私ですが、基本的な理論をよく理解することができました。理論だけでなく具体的な子どもの特性を例に出してお話くださったので、とてもわかりやすかったです。

特に印象に残ったことは、「発達障害の 8～9 割は教育の問題であり、どのようにかわるかが大切」とおっしゃっていたことです。教育に携わる者として、一人一人の特性に真摯に向き合い、その子の可能性をよりよく伸ばせるような関りをしていかなければと改めて考えるよい機会となりました。